

# 4-5 坂のまち 今熊野の 防災まちづくりの体制・役割

## 一人ひとり

住民の皆さんは、一人ひとりが防災意識の向上を図るとともに、防災まちづくり活動に積極的に参加するなど、活動の担い手となります。

参加

### 「防災まちづくり」への 参加・協力

- ・学区の取組や地域活動への参加、協力

※「単発的な協力ならできる」という住民の協力も世代を問わず募り、交流や学びの機会づくりにも力を入れます。

## 町単位

ブロック長や町内の防災部長・副部長は、①地域の防災活動のリーダーの役割、②地域住民の防災まちづくりに関する声を学区や行政等へつなげる架け橋の役割を担います。

### 「防災まちづくり」に関する 町内での参加、協力の働きかけ

- ・町内住民への活動参加の働きかけ
- ・町内での、防災まちづくりに関する情報の発信

できる範囲  
でお手伝い

## 学区単位

今熊野学区では、自主防災会が学区全体の防災まちづくり活動の主体となります。自治連合会や地域の各種組織をはじめ、行政や専門家等との連携により、少しでも安心して暮らせるまちづくりを進める役割を担います。

### 「防災まちづくり」の 意識・機運づくり

- ・学区全体の啓発
- ・学区住民が集まれる機会づくり
- ・防災まちづくりに関する情報の発信

自治連合会

町内会

各種団体等

適宜連携！

適宜連携！

行政や支援機関等は、地域が主体となる防災まちづくり活動に対して支援します。また、地域からの情報による、防災まちづくりの整備の検討など、具体的な取組に対して適宜支援を行います。

学区が広く、地域特性も多様な今熊野学区では、住民一人ひとりの参加と協力が必要です。まずは地域のことや自分の役割を理解し、できることに取り組んでいきましょう。一方で防災上の不安や課題がある場合は、個人で抱え込まず、周囲の人々、町や学区に適宜協力を求めていきましょう。学区として、住民同士や各種団体等と協力し合える環境づくりを行っていきます。

連携

ひと

改善

いえ・みち・まち

## 日頃からの防災意識や 住民同士の情報交流

- ・自分の身の回りの点検
- ・自分の町や住民の状況把握
- ・身近な人との情報共有やコミュニケーション

## 身の回りの 安全対策の実践

- ・自分の身の回りの適正な管理
- ・危険箇所の改善や整備

## 町内の連携 近隣町、学区との連携

- ・町内の連携（町内会長、組長との連携）
- ・近隣町との連携（近隣の町内会長、ブロック長との連携）
- ・学区との、地域状況の共有

## 町内住民に対する 「防災まちづくり」の取組サポート

- ・町内の点検、状況の把握
- ・町内住民の不安や課題意識の把握と助言
- ・危険箇所の改善、整備の際の調整やサポート

## 「防災まちづくり」を進める ネットワークづくり

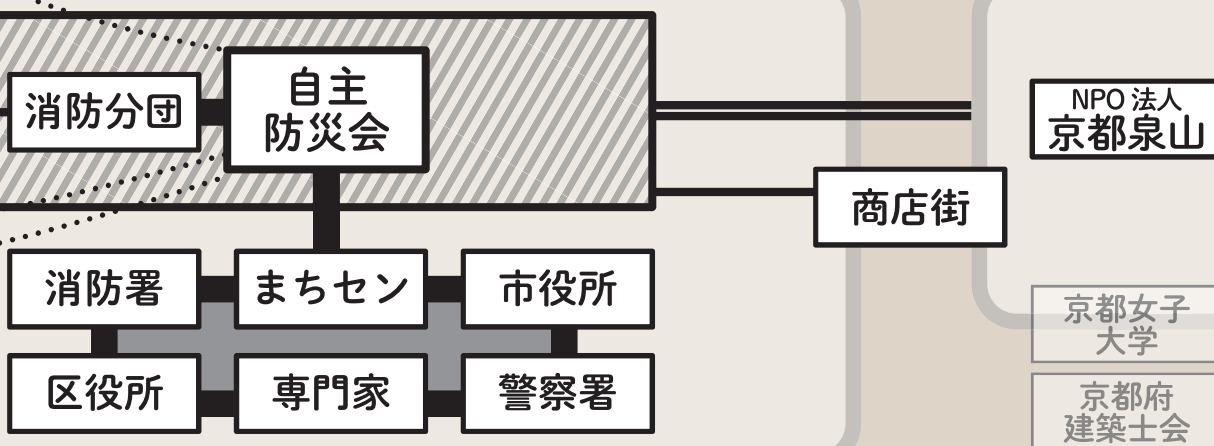
- ・住民、各町との連携サポート
- ・学区内の各種団体等との連携
- ・行政や専門家等との連携

### 防災まちづくりチーム

## 「防災まちづくり」を進める 具体的な整備の検討・実践

- ・各町と連携した、学区全体の情報把握
- ・情報を基にした改善や整備の実行（行政、関連団体と連携）

### 空き家対策関連



## 防災まちづくりの年間の流れ



交流しながら  
防災を学ぼう！期間

10 11 12 1 2 3

□整備対象になる場合、町や学区の取組に協力する。

### 整備協力

## 交流と学びの 機会づくり

要望が多かった「交流や学びの機会」。住民の皆さんの協力が多いと、それだけできることが広がります。企画・運営、広報など、単発でもいいので、ぜひ皆さんの「やってみたい！」と一緒に実現していきましょう。

### 企画 案

- 防災オンライン講座
- 防災グッズ見本市
- 最新の非常食・試食会
- 坂のまちマラソン
- 防災ナイトキャンプ
- 防災まちづくり研修会（今熊野検定）
- 防災まちづくり講演会
- 空き家相談会

※企画例 / 年に1企画程度開催予定

□対策を進めるにあたり、町内の調整等協力する。

### 整備協力

□次年度の防災部長への引き継ぎ（4月）の準備をする。

### 引継ぎ準備

将来像へ向けたこれからの20年

4章 目指すまちの将来像

□学区の対策を随時進める。

□次年度の取組を検討する。

### 個別の改善への対応・整備

※期間以外も適宜対応します。

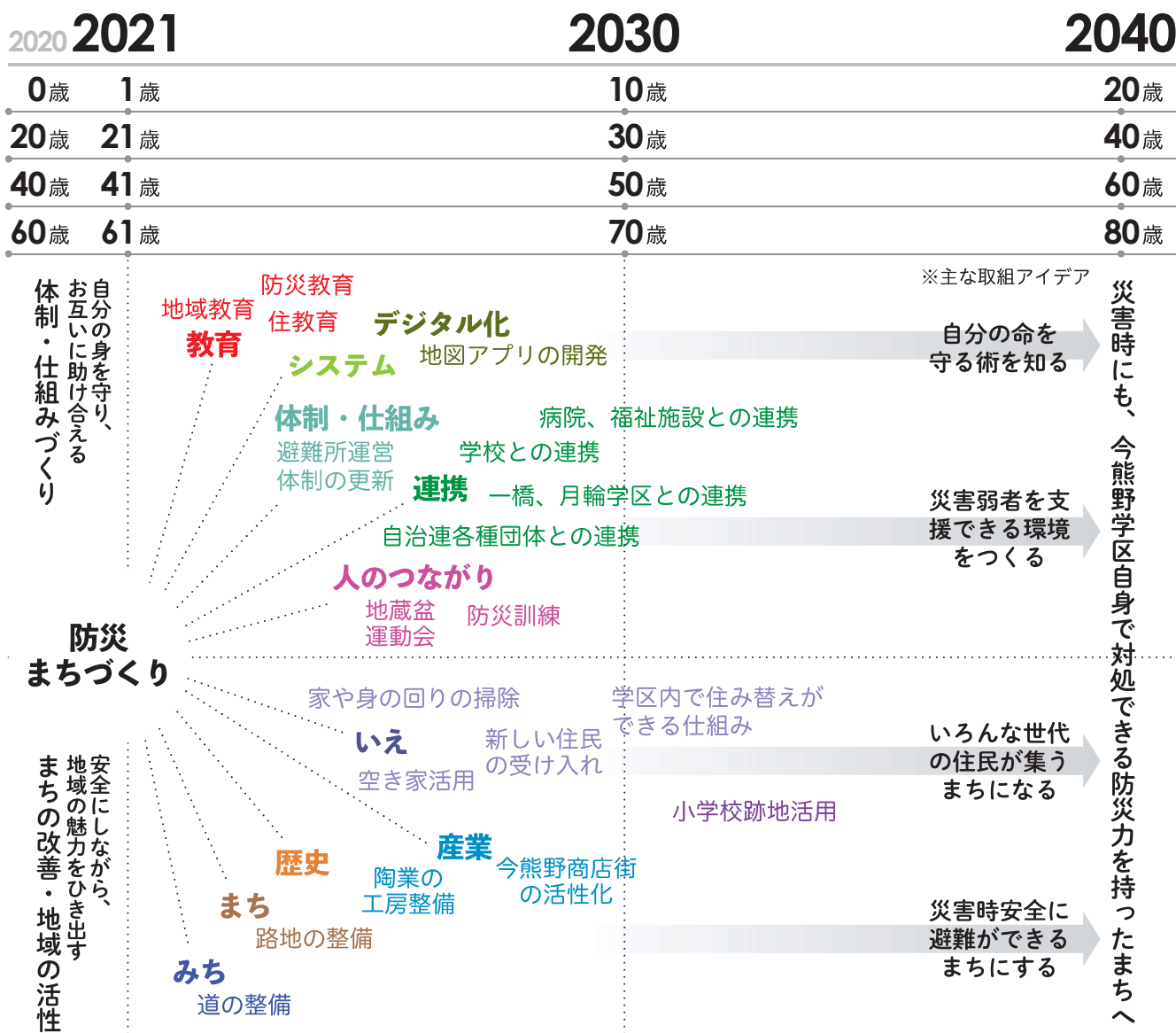
### 次年度検討

運動会

10 11 12 1 2 3 4

# 4-7 坂のまち 今熊野の 将来像へ向けたこれからの20年

防災まちづくりをきっかけに、日々の地域活動や、今熊野学区がより暮らしやすくなる取組を積み重ね、今後起こりうる災害時にも、地域で対処できる防災力を持ったまちを目指していきます。



今後想定される地震例：南海トラフ地震（最大震度6弱）、花折断層地震（最大震度7）

想定外と言われた東日本大震災よりも大きな被害をもたらす「南海トラフ地震」が高い確率で発生すると言われています。その時、今熊野で何が起きるか想像したことはありますか？

今熊野は、震度6弱～5強程度の揺れに見舞われ、家屋被害や負傷者が出るほか、津波により海岸部の発電所等が被災し、長期的に停電や断水が発生すると想定されます。しかし、津波により被災した都市への支援が優先され、支援を受けるところか働き手も物資もなく、被災しながらも厳しい時間を過ごすことになる可能性もあります。



そんな地震が20～30年後に起きます。

いま、東山泉小中学校に通う子どもたちが、新たな生活を築き社会を支え、いま、産声をあげた子が、成人し新たな時代を切り拓こうとしている頃です。

私たちは、残された20年余りで、今熊野の子どもたちに何を伝えるべきでしょうか。始めましょう、10年後、20年後を見据えた防災まちづくり。